

(議事録・WEB 公開用)

令和 2 年度第 3 回図書館協議会

日時 令和 3 年 2 月 9 日 (水) 午前 10 時 30 分から図書館集会室

出席

委員

木村委員、丸田委員、梅景委員、浅田委員、
岡田委員、田中委員、真弓委員、村瀬委員、山田委員、
馬淵委員、武藤委員、今関委員、岸本委員、佐伯委員

事務局

田代教育長、細谷教育部長、松本館長、西村副館長、佐藤参事、天谷主査

1 開会

2 あいさつ

【教育長】

春が待ち遠しいこの頃、図書館ではコロナが蔓延するなか市民の皆さんと本をどのようにつなげていくか一年間試行錯誤してきた。

委員の皆様から示唆に富んだご意見を多数賜り心強く図書館運営を進めていくことができた。ありがとうございました。

今年度後半においては、感染対策を行いながらさまざまな行事を開催したところ、多くの市民にご参加いただき好評を得ることができた。資料整備については、地方創生臨時交付金を活用し、ステイホームのための本を多数購入した。新たな本との出会いの場となるよう努めている。

おかげさまで、1 月末現在、1 日当たりの貸出冊数については昨年度より微増している。貸館施設についても定員数や活動内容の制限させていただく中で、11 月以降は新しい利用者も増え、申込件数が月 100 件を超えるなど活発にご利用いただいている。

引き続き、感染拡大防止に努めながら、本に親しんでもらう機会づくりに努めます。

さて、昨年 10 月に守山みらい懇談会が、市制 50 周年の節目に当たり、守山市のめざすべき将来像やまちづくり・ひとづくりの方向性について提言書を提出した。提言のひとつに読書を楽しむ、読書日本一のまちづくりが掲げられている。図書館が大変期待される中、実現に向けてどのように取り組んでいけばいいのか、守山市や図書館がどうなれば日本一と言えるのか、委員それぞれお考えを通してご協議いただければ有り難い。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【会長】

最近、会議はほとんどリモートで行っている。顔を合わせて会議をするのは久しぶりになる。リモートは便利だが、意見を交換しながらひとつにまとめるには難しい。顔・表情を見ながらご意見を伺って意見をまとめていくには、やはり集まっての会議が大切だ。

本日は、読書日本一のまちとはなにか議論をしていただくことになるが、この提言については、図書館への期待が大きいと感じる。期待に応えてがんばっていく必要がある。この提言の具体的なイメージを皆さんと共有していけるよう意見をお聞きしたい。

3 報告事項

【会長】次第3、(1) 令和2年10月以降の主な報告事項について、(2) 令和2年度 図書館利用状況について、合わせて事務局より報告をお願いします。

【事務局】資料に沿って説明。

追加報告として、親子でたのしむおはなし会のことを申し上げる。8月から再開し、集会室で毎週水曜、職員により実施している。

コロナ以前はボランティアさんにご協力いただき毎日実施していた。コロナ後は安全面からボランティアの参加を停止していた。3月から職員とペアになって参加していただく。

以上、報告とします。

【会長】1日あたり貸出数については、去年より微増している。質問があればお願いします。今出なければ後のところでお願いします。

4 協議事項

【会長】令和3年度守山市立図書館運営方針および活動計画（案）について、事務局からお願いします。

【事務局】資料に沿って説明。

【会長】ご質問がありましたらお願いします。

【事務局（佐藤参事）】としょかんかざり隊！のおりがみの折り方については、現在、館内のタブレットで動画を閲覧しながら作成していただいている。

【委員】ウェブサイトでは公開していない？

【事務局】著作権を確認する必要がある。

【委員】タブレットで閲覧してもらう場合でも著作権の許諾は必要です。

【事務局】確認します（後日、著作権者に確認をとり法 38 条で対応した）。

【委員】北部図書館機能充実、図書郵送サービスの現状について教えてほしい。

【事務局】北部については設計業者が決定し、図面等の協議が始まっている。郵送サービスについては申込み 1 件、問合せ 2 件があった。実際に利用されている方はまだいない。

【委員】ICT 情報発信とは、おはなし会をビデオに撮ってインターネットに発信するということか。

【事務局】作品等の著作権がクリアできたものをホームページにアップする。アップすることについてはおおむねご了承いただいている。アップの方法について相談をしているところです。

【委員】朝日新聞の滋賀版に津市立図書館が声優・ナレーターが本を読むオーディオブックをインターネットで提供している記事が載った。また電子図書は湖南市に続き 2 番目の導入とのこと。そのような計画はないか。

【事務局】電子図書等については現在、計画がないので、今後の課題とします。

図書館では録音図書を所蔵しており、過去にはカセットで提供していた。現在は、市販の朗読 CD を購入して提供している。

【委員】津のオーディオブックはダウンロードして利用できる、電子図書と同じ形式で県内初の導入ということである。

【会長】読書日本一のまちづくりについて、まず、事務局から説明をお願いします。

【事務局】資料に沿って説明。

【委員】外部から大きくいわれて図書館が動くということは今までになかった。今までは、

図書館自身がスタンスを確立させて今まで動いてきた。日本一の読書ってなんだろう、と困惑した。また、図書館が提言を受け入れてすでに動いていることに動揺した。

なにをもって日本一の読書というのか。

昨年 11 月に滋賀県立図書館で行われた図書館協議会交流会に参加した。帝塚山大学名誉教授の中川幾郎先生が、図書館の意義についてお話くださり、大変勉強になった。残念ながら参加者が多くなかったので、協議会のみんなで勉強する必要があると感じた。

いままでは公民館が文化活動を提供していたが、今公民館の事業は貸館のみとなっている。生涯学習の基本的なサービスを発信するのが図書館しかない状況にある。

どうしたら市民のための図書館といえるのか改めて考えたい。市民が喜んで利用して刺激を受け、自分を向上させるためのサービスが図書館にはある。

「日本一」は凄く違和感がある。違う気がする。

【会長】 数値で測るという話ではないと思う。守山市立図書館の位置づけが大きく変わっている。今までは自分たちで考えてきた面があるが、図書館への期待が大きくなったために外部からも意見が出てきた。

【委員】 免許を返納したので、もーりーカーで図書館に来ている。1 乗車 300 円で、行き帰りとも利用できるのも、とても便利である。

高齢者が図書館に来るのはとても大変だ。いろんな世代が来ることが目標であれば、高齢者を呼び込むことが必要だと思う。図書館に来ることが大変と思っている人は多い。そこで、移動図書館が運行してくれれば有り難い。

【会長】 図書館の場所だけでなく機能を広げる必要がある。

【委員】 図書館が関わるのは提言 6 だけではないと思う。図書館は人の生活に関わって様々な資料提供をすることができる。提言 6 は子ども読書に近い内容。図書館はもっと広く提言 1、4、5 などにも貢献できる。提言 6 に活動を限定しない方がよい。

Twitter でおもしろいつぶやきを見た。本のがんこ堂がみすず書房にフェア開催を交渉したところ、みすず書房から「田舎には読む人はいない」と断られたとのこと。田舎にも本を読む人いるし、工学系の専門書も県立図書館ではよく利用されている。図書館には、もっと本の世界を知っていただく活動をしてほしい。

【委員】 色々な方面で図書館の位置づけがあると思う。図書館で地元企業・製品の紹介をしてくださっているのは、商工会議所として有り難いと思っている。また、起業就労コーナーを設置してくださっている。図書館で起業・創業・まちおこしができるのは素晴らしい

いこと。

昨年来より図書館内のカフェがんこ堂でも販売しているTシャツは計400枚が売れた。そこで、医療従事者の応援になればと守山市民病院、滋賀県立総合病院に寄付を行った。

木もれ日広場に掲げているフラッグも評判が良い。守山駅にも子どもたちの応援メッセージとともに掲示している。図書館の展示がきっかけで市内の他の施設にも広がった。

図書館の役割、多方面に広がっている。提言6だけではなくいろいろなことを商工会議所と連携し、やっていきたい。

【委員】読書日本一という言葉は、漠然としている。「読書は好きですか？」と聞かれて「はい、好きです」と答える人が多くなる、本が好きな人が多いということだろうか。そういう人を増やす活動が必要と捉えた。各年代にアピールする取り組みがあると思うが、コロナのなかでは難しい部分もある。

【委員】子どもの読書習慣を広げていくことが大切だ。今、活動計画にあげていることを一つ一つきちんとやっていくことが大切。図書館の職員が子ども文庫の本の選定を行っているが、大変いい本を選んでくれている。立派な建物ができたのだから、中身も充実していけば日本一につながっていくのではないかな。

蔵書の充実がなにより重要で、日本一に見合う予算が必要ではないか。ベストセラーだけでなく幅広い本を収集しなければいけない。

大きな火花を上げるのではなく、基本的なことをコツコツ実施することが必要だ。

【委員】ビデオクラブの会員が展示の当番をしていて出た意見だが、昨年集会室で開催した「山本忠敬展」は対象が子どもだとすると、展示位置が高い。

また、照明の当たっている絵はよく見えるが、当たっていない絵はよいところが見えない。いまある設備でもっと工夫できると思う。

また、先ほど話題に出た朗読カセットについては、CD化することもできるので一考してはどうか。

【委員】「本の闇鍋」がとても面白いと感じた。速野小学校で読み聞かせしているが、この一年はできなかったのでも、学校図書室におすすめの本を作って貼り出した。

図書館に借りに行くとねという気持ちで学校図書室にない本も紹介した。しかし、本はすぐ手に取れるところにあることが大切。「本の闇鍋」も、どんな本かわからないが手元にあることで読もうという気持ちになる。

高齢者も、もーりーカーを使ってわざわざ来ようと思えない人もいる。子どもたちも遠くからは一人で図書館まで来られない。早く北部図書館ができて、どの世代も身近に本が

ある環境をいかにつくっていくかが大事だ。

【委員】「本の闇鍋」については、中高生のおすすめの本という、生の声が聞けるとてもよい企画だと思う。

日本一ということについては、知の体系という位置づけや利用する人が生き生きと利用することが大事だと思う。読書に直接かかわりのない講座でも、参加者が本を借りて帰ることある。自分が主催している講座でも、本の紹介をしている。

そこで、サポーターの活動が非常に重要になる。サポーターの支援を充実していただきたい。具体的には、チラシは無料で印刷できるが、資料の場合は実費が必要となる。そうすると、完全無料では開講できない。参加者に資料代を求めることになると中高生が参加しづらい。

【委員】高校図書館に勤務しているが、学校図書館は生徒にとって絶対に行かなければいけない場所ではない。なので、いかに来てもらえるか工夫している。

授業の一環として間伐材で返却ポストを作ってもらったことがあり、昇降口に設置した。すると、返すのが便利で図書室に来なくなったので、自分が図書室にいる時は返却ポストを室内に入れるようにした。図書室に来てくれると、新刊コーナーなども見てくれる。読書の習慣がない子が多いので、きっかけをつくるようにしている。司書とはきっかけづくりをお手伝いするものと思っている。

図書館は本を読むところでありかつコミュニティの場である。いろいろな企画をすることで同じ興味を持った人たちで交流が広がる。

【委員】読書日本一のまちとは、素敵なことだと思う。年度末になり、小学校では学校評価を行う。一番低い項目が「すすんで読書に親しむ」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせてもが保護者・児童とも60%代に留まる。平成20年は両者とも20%代。80%を目指して頑張っている。

「読書新聞」を作成し、家読（うちどく）習慣の啓発を行って読書が好きと言える子を増やしていく。一人何冊借りるという数値ではなく、好きな本を見つけてほしい。

中学校では古典を担当していたが、古典が嫌いにならないように、色々な話題を授業に取り入れていた。好きになるきっかけをどう与えていくか。北部図書館設置も大きなきっかけになる。地域の書店に行けば「読書日本一」という言葉が掲げられていて守山の誰もがそのことを知っている読書の好きな雰囲気をつくっていくことで、読書日本一が実現される。

書店、市民の皆さんに取り組みを知っていただくことが必要で、その結果として目標数値が達成できればよい。

【委員】中学校現場にいて感じることを申し上げる。小学校に1年間勤務したことがある。本よみさんたろうさんというボランティアグループが来てくださっていた。子どもたちは真剣に聞いていた。このように本好きの子どもができていいのかと驚いた。

現在、3階の端にある中学校図書室の利用率は十分とは言えない。学校司書に来ていただいて部屋を整備していただいているが、限られた生徒が図書室に来るのが現状である。毎朝、「アカデミックタイム」というものを設けて10分間、生徒に学習や読書をしてもらっている。図書室から図書委員が選定した学級文庫を置いている。そこから選んで読んでいる生徒もいる。

電子図書は普及しているように感じる。昨年12月から国のギガスクール構想により、生徒一人1端末が配置された。子どもたちはすぐに使いこなしている。授業で学校紹介のプレゼンテーションの作成、理科の実験結果と考察を入力、国語で、入力したものをスクリーンに投影する等々。電子図書もそこに導入していけないか。

図書館のホームページにそうした学校活動に必要な守山ならではのイラスト素材等のコンテンツを用意していただけると、そのイラストをプレゼンテーションに使えると思う。

【委員】提言に「読書日本一」が出てくるほどになったのかという驚きがあった。図書館はよく頑張っていると思っている。図書館自体はすでに読書日本一といえるのではないか。そして、それを市全体にどう広げていくかが今後の課題だ。資料をいかにたくさん揃えるかが図書館の使命なので、しっかり予算をつけていただきたい。良い提案が実現する方向で動いている。ますます充実すると思う。大型絵本や雑誌のタイトル数など、過去のことを思えば良くなったことはたくさんある。着実に願っていたことが実現できていると感じる。

この方向で進めてもらえたら、図書館が守山の核となって読書日本一のまちになるのではないか。

【会長】一通りご意見を伺った。ほかの方のご意見をいただいていることがあればお願いします。

【委員】図書館をひいきしてしまうので、外部から提言と言われて違和感を持ったが、改めて考えてみると、図書館はこれらのことを確実に進められると思う。図書館は本当によくやっているとと思う。

ICT活用については、自分も勉強不足の面がある。市民向けの講座があれば有り難い。『未来をつくる図書館』（※『未来をつくる図書館：ニューヨークからの報告』菅谷明子／著、岩波書店）に、市民が利用しやすいように職員が講座を開催することが書かれていた。

それを実施してほしい。

【会長】図書館がやってきたから提言に出てきたといえる。市民全体にそう思ってもらえる環境づくりがこれから重要になる。市民へのはたらきかけが職員の果たす役割となる。

「読書日本一」と言っている自治体はたくさんあり、条例をつくっているところもある。そこに住む人達に本に親しむ人たちが増えていくことが大切。

その他

【会長】事務局からあればお願いします。

【事務局】次年度第1回協議会は5～6月頃を予定しています。コロナの状況を見ながらお知らせします。

【会長】委員の任期は令和4年3月まで、皆さん新年度もどうぞよろしくお願いします。

【事務局】本日はありがとうございました。

5 閉会